

日本下水文化研究会 会報

発行所 日本下水文化研究会運営委員会
 発行責任者 谷口尚弘（運営委員会副代表）
 発行年月日 平成 7 年 6 月 1 日
 印刷所 (株)愛 甲 社
 編集 小松建司 新澤紀昭
 第 1 号（通巻 1 号）

発刊の辞・会員みんなの研究会

運営委員代表 稲場 紀久雄

2月16日のことである。今年最初の運営委員会の席上、栗田委員がこう切り出した。

「今年は会報を出すことにしませんか。私の友人が二人自分たちが手伝うから会報を出しては、と勧めてくれるんです。どうですか、この際踏み切っては・・・」

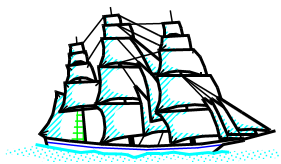
私は、信じられない思いとワクワクする気持ちでその提案を聞いていた。定期的に会報を出すためには、計り知れない努力と忍耐が必要だ。だが、二人もの友人が手伝ってもよい、と言って下さっているという。何と素晴らしいことだろう。会報は研究会の運営を会員一人一人にオープンにし、また自由な発言と討論の場を提供する。その事が本当の意味でこの会を会員みんなのものとし、息長く活動が続けていく基盤を形成するに違いない。

さらに私には、この時もう一つの思いがあった。大変大仰な言い方になるが、下水文化は、国民一人一人のものとなるまで今後より深くより広く、普及しなければならないという思いである。このような思いを改めて抱くに至った契機は、阪神大震災勃発直後の下水や尿尿の始末を巡る被災民と下水道管理者の行動にあった。下水道の普及と下水文化の成熟とは本来一体でなければならない。ところが普及が文化の喪失に繋がるのではないか。このような事態は食い止めねばならない。

栗田委員の提案に、委員全体が愉快そうに目を輝かせていた。みんな思いは、同じなのだ。谷口委員長の衆議一決の言に続けて、栗田委員は言った。

「とにかく最初は、B4版1枚ですよ。それでも半分折れば表裏で4ページ。大変でしょうが、可能な範囲でやってみましょう。走りながら考えることも必要ですよ」

発刊の辞として会報発行決定の経緯を紹介し、会員諸氏のご参加とご協力を衷心よりお願いするものである。



会報の創刊にあたって

代表評議員 西堀 清六

月日の流れは速いもので、阪神大震災からはや数カ月が過ぎようとしています。しかし、被災地では復興・復旧への努力が注がれていますが、いまだ当面の生活に追われている方々も多いと聞いています。被災者の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

さて、日本下水文化研究会は、その母体である「下水文化研究会」が昭和61年12月に設立されて以来、はや9年目に入っています。この間、(社)日本下水道協会を始め多くの方々のご支援を得て、本会もその成長と共に組織の規模や内容を変えてきました。

現在、本会は、定例研究会（年4回）、「バルトン忌」、「下水文化を見る会」、下水文化研究発表会（隔年）、各種シンポジウム等々の開催や、会員等による研究成果の発表の場として「下水文化叢書」を出版するなど、独自の活動を行っています。

これらの活動内容は、年1回発行しています機関誌「下水文化研究」を通して、約400名の会員の皆様にご報告致しているところです。しかし、これらのご報告は幾分古いニュースとなり勝ちであり、「今現在なにを行っているか」という情報については非常に不足していると言えます。

余談になりますが、私は会社の運営にあたり常々申していますことの一つに、「知る努力、知らせる努力」という標語があります。これは、各自ひとりひとりが知り得た情報を自助努力により、速やかに周りの人に伝え効果的に活用していく必要があるためです。

このたび、本会の会報を定期的に発行してゆく運びとなりましたねらいもここにあると思います。また、この種の活動は継続していくことに意義があり、これには協力・バックアップ体制が欠かせないものでもあります。

つきましては、会員の皆様に本会報を十分に活用して頂き、今後とも本会への一層のご支援・ご協力をお願い致しますとともに、これにより日本下水文化研究会がさらに活動範囲をひろげ、皆様のご要望に十分こたえるまでに成長することを期待するものであります。

ルポ・運営委員会

こんにちわ、本年から会員の皆さんとの連帯を深めるため、事務局の活動報告をしていこうということで、年4回活動の取材・報告を担当することになりました通称”茶坊主”です。どうぞよろしくお願い致します。

さて、私は東京駅から歩いて5分程の所に在りますビルの会議室にいます。現在、午後6時30分、いつもならば一日一生懸命(?)働き、心と体の疲れを癒す、居酒屋で一杯と言う時間。なぜここに居るかという、研究会の第一回運営委

員会が開かれるからであります。

本日の委員会の内容は、

[報告事項]

- 1) 平成6年度会計報告
- 2) 環境教育シンポジウムについて
- 3) 環境教材の配布について
- 4) 小平市「ふれあい下水道館」出典準備状況について

て

[協議事項]

- 1) 下水文化研究会会報の作成について
- 2) 第3回下水文化研究発表について
- 3) 第3回下水文化を見る会の開催について
- 4) 下水文化叢書第3号の発刊について
- 5) 第4回バルトン忌の開催について
- 6) その他

でした。

平成7年度の主な「事業予定」

- ◎ バルトン忌を8月5日前後に実施します。
- ◎ 第3回下水文化研究発表会は10月5日(木)に、東京・小平市で開催します(別項参照)。
- ◎ 昨年は実施できませんでしたが、今年は10月6日(金)に横浜市の下水文化を見て廻ります。
- ◎ 定例研究会を年4回開催する予定です。
- ◎ 「下水文化研究」第7号を6月末頃発行します。



今回この委員会に参加して感じたことは、委員の皆さんが実には和気あいあいと「企画」・「実行」をされていることでした。私などは、職場内の旅行幹事をやらされるだけで大変なのに、全国の会員の方々のためにここまでやれること。

さらに、世間で「おじさん」という部類の人が、夜遅くまで疲れを見せないで議論していることに(ちなみにこの日は、午後9時半)驚いてしまいました。

委員会の内容はというと、今まで一度も各種イベントに参加できなかったのが残念と思うくらい「企画」の内容が充実していて、研究会にける委員の意気込みを感じました。

とりあえず、10月に開催される下水文化を見る会に参加して見ませんか。きっと「企画」のきめ細かさを感じて頂けることと思います。勿論私も参加します。

会員の皆様から

「下水文化叢書」の原稿を募集しております

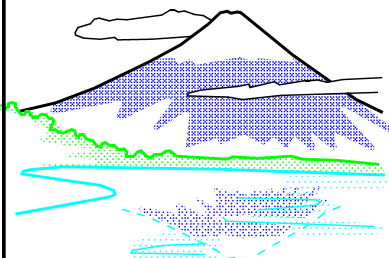
「下水文化叢書」は下水文化に関する会員の貴重な研究成果を記録、保存し、会員に配布するほか、大学図書館等に贈呈することにより、世に広めることを目的に発行しています。

会員の皆様の中に、講義録や講演原稿、貴重な研究成果、調査資料をお持ちでいながら、出版社の都合で本に出来ないままの原稿がありましたら、運営委員会あて、お送りください。内容を検討させていただきます「下水文化叢書」として刊行させていただきます。

◆ 条件 ◆

・ 原稿料のお支払いはできません(著書を一〇部贈呈します)。

・ ワープロで版下を作成していただきます。
・ 写真・図表は版下に貼り付けてください。但しカラー印刷はいたしません。



アンケートの結果

昨年行いました会員アンケートに多数の方からご意見をいただきました。紙面を借りまして御礼申し上げます。アンケートの内容を一部紹介させていただきます。

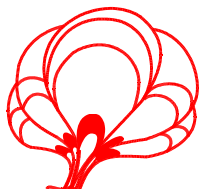
I 下水文化について研究されていること

江戸の下水・下水の水質試験の歴史・瀬戸内海島々の下水文化・都市水利史全般・水域の総合的な利用・ため池と雨水貯留・下水尿尿に係わる遺構・コンサルタント業務と水道人等でした。

II 定例研究会についてのご希望

生かすべき風俗習慣・戦前戦後の下水道の変遷・下水尿尿に係わる民話・江戸時代の歴史と下水文化との関わりについて・欧米先進国の下水文化・中水道と水不足水資源等。

てるてる坊主「稲場氏」。雨水浸透式下水道「藤田昌夫氏」。今後の下水道について「久保起氏」等具体的な希望もありました。その他に一般の人を対象にした講演会を開催しては、という意見や定例研究会の講師をしてもよいというお答えもありました。



お知らせ

第3回下水文化研究発表会は小平市で ——

平成7年10月4日に、小平市「ふれあい下水道館」が開館するのを記念して、第3回下水文化研究発表会を小平市と共催で開催します。

日 時 平成7年10月5日(木) 午前10時

会 場 小平市民会館(ルネこだいら)

西武新宿線「小平」駅前

昼の休憩時間を利用して「ふれあいの下水道館」の見学を行います。

スケジュールが決まり次第、詳しい開催のお知らせをお送りします。

会費納入をお忘れなく！

会員の皆様に平成7年度会費納入をお願いしているところですが、ウっかり忘れられてしまうことが多いようです。

会の運営は皆様の会費によって行われております。お忘れなくお納め下さいますようお願いいたします。

III 下水文化研究誌・下水文化叢書についてのご意見・ご希望

各都道府県の下水道文化を紹介してください・A4、B5の装丁に・全国各地の生活排水についての習慣、史跡等の集約等のほか、会員の発表の場であるとともに、交流の場に・有志で、内容についての研究を等もありました。その他、面白く読まさせていただいております等のご意見が多数ありました。

IV 当会運営委員会についてのご意見

中央に偏っている、地方での講演も実施してほしい・下水道の裾野を広げる企画が大切・運営委員会の議事内容を速報の形で会員に知らせる体制が必要等のほか、ご苦勞様ですの勞いの言葉も多数ありました。

V あなたの身近な下水文化に係わると思われる情報

多数の方から情報提供がありました。

アンケートにご協力ありがとうございました。ご意見等の中で、実施できるところから順次行っていきますので、これからもご意見、ご希望がありましたら「会報」へお送り下さい。

前年度分までの会費が未納になっている方には、今年の2月下旬に督促をさせていただきました。併せてお納め下さるようお願いいたします。

「会報」に名前を付けて下さい

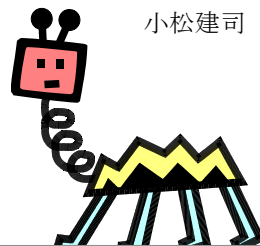
日本文化研究会では、会員と会の結びつきを深めるために、会員相互の交流の場となることを希って、平成7年度から「会報」を発行する事にしました。

「会報」にふさわしい名前を募ります。ハガキに書いて平成7年7月31日までに下記当でお送り下さい(いくつでも結構です)。

〒108 東京都港区港南1-2-28

東京都下水道局芝浦水処理センター水質管理係

小松建司



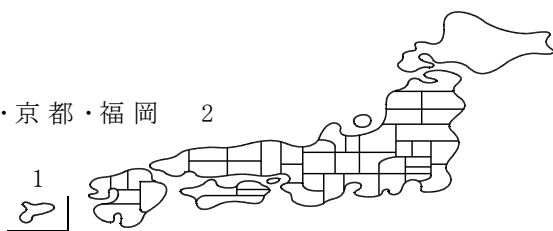
会員の都道府県分布

正会員 321名の内訳

東京 91 大阪 42 神奈川 31 千葉・埼玉 21 京都 14 愛知 10
兵庫・北海道 9 奈良 8 山口 7 茨城・宮城 6 岡山・滋賀 5
長崎・新潟・長野・三重・栃木・福岡 3 静岡・岐阜・宮崎 2
山形・香川・和歌山・沖縄・島根・鳥取・富山・佐賀・岩手・福島 1

賛助会員 68団体内の内訳

東京 39 大阪 10 埼玉・愛知 3 兵庫・京都・福岡 2
福井・新潟・北海道・宮崎・石川・茨城・島根 1

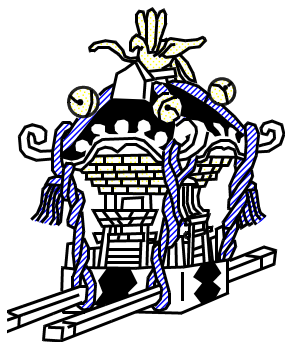


永井荷風の「日和下駄」より

東京の溝川には折々可笑しいほど事実と相違した美しい名がつけられてある。例えば芝愛宕下なる青松寺の前を流れる下水を昔から桜川と呼び、また今日では全く埋尽された神田鍛冶町の下水を逢初川、橋場総泉寺の裏手から真崎へ出る溝川を思川、また小石川金剛寺坂下の下水を人參川と呼ぶ類である。江戸時代にあつてはこれらの溝川も寺院の門前や大名屋敷の外堀など、幾分か人の目につく場所を流れていたような事から、土地の人にはその名を示すが如き特殊の感情を与えたのかも知れない。しかし今日の東京になつては下水を呼んで川となすことすら既に滑稽なほど大袈裟である。

※「日和下駄」は大正三〜四(1914〜1915)年に書かれた作品です。

また、永井荷風の実父永井久一郎は長与専齊らと共に、東京の下水道の先駆者といえる人です。



原稿募集

会報に載せたいと思う原稿を募集しています。内容は特に問いません。連載物でも可。何でも結構です。

応募方法は、ワープロ等でお書きの方は、フロッピーまたは印刷物。手書きの方は、普通の紙、原稿用紙に書いたものでも結構です。(解り難い字はふりがなをお願いします)

宛先は、〒108 港区港南1-2-28

東京都下水道局芝浦水処理センター水質管理係
小松建司 迄どしどし送って下さい。

【編集後記】

会報を作るにあたって、ワープロ編集で版下を作成したのは初めてでした。結構時間がかかってしまいました。皆さんの良い友になれるよう、これからも頑張りますのでよろしくお願い致します。

(建)

ルポでお目にかかりました茶坊主です。茶坊主というごますり、と云うそうですが、私の場合は、初恋の彼女につけてもらった大切なニックネームです。今後、紙面を通じて、皆様のお宅にお伺いします。のでよろしくお願いします。

(茶坊主)